

I. 経済学部として行った組織的活動

1 地域連携・生涯学習センター（旧 生涯学習教育研究センター）

「地域連携・生涯学習センター」は生涯学習に関する調査研究、や生涯学習機会の提供などを目的として 1998 年度に学内共同教育研究施設として設置されました。また、高等教育機関コンソーシアムなど産官学の連携のもと、経済学部の教員も同センターが主催するシンポジウム、セミナー、講演会、公開講座等の事業に参画しています。

- ・ 2011 年 4 月 9 日 土曜講座 第 1 回「食と農の再生を考える～生産者と消費者の顔の見える関係づくり」 講師：大西敏夫
- ・ 2011 年 6 月 4 日 土曜講座 第 3 回「食文化が地域を創る・和歌山食文化論」
講師：鈴木裕範
- ・ 2011 年 11 月 15 日 高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座「人権問題は今」
講師：金川めぐみ
- ・ 2011 年 12 月 10 日 和歌山大学松下会館 50 周年記念式典 記念講演「松下会館、これまでの五十年」 講師：八丁直行（名誉教授）
- ・ 2011 年 12 月 16 日 私たちが創る「新しい公共」、ワークショップ
コメンテーター：足立基治

2 南紀熊野サテライト（旧 紀南サテライト）

南紀熊野サテライトは、本学の研究・教育機能を活用して、和歌山県南部の地域づくりに貢献する、大学の地域ステーションをめざしている。

南紀熊野サテライトが取り組む事業は、①地域住民の多様な教育ニーズに対応した特色ある高等教育の実施、②地域研究の推進及び地域の課題をふまえた生涯学習の機会提供、③地域自治体、企業等と連携した地域活性化に資する事業の実施、④高校を含めた地域に対する大学情報の発信である。

経済学部は、南紀熊野サテライトが行う高等教育事業、地域研究事業、地域連携・生涯学習事業において重要な役割を果たしている。

- 地域連携・生涯学習センター企画運営委員会（南紀熊野サテライト関係委員）
大泉英次（南紀熊野サテライト長）
- 修士論文発表会および講演・シンポジウムの開催（2011 年 4 月 2 日）
経済学研究科大学院生による修士論文発表：谷脇幹雄「南紀田辺における環境を活かした地域振興方策」、溝口博一「地域農業活性化と有機農業の意義及び経済性に関する研

究～紀州梅について～」。

講演：足立基浩「地域の魅力発見―「まちづくりカフェ With」と「わかやま散策隊」の取り組み」、大西敏夫「地域農業の活性化をめぐる諸条件」。

シンポジウム：谷脇幹雄、溝口博一、足立基浩、大西敏夫、大泉英次。

- 本学が設置する「和歌山大学震災支援対策本部」が「和歌山大学東日本大震災・紀伊半島豪雨災害支援対策本部」に改称されたことに伴い、対策本部の分室が南紀熊野サテライトに設置された。分室長は大泉英次（南紀熊野サテライト長）。
- 大学院授業科目開講（後期）
「アジア経済の最新動向」
李東浩・柳到亨・岡部美砂

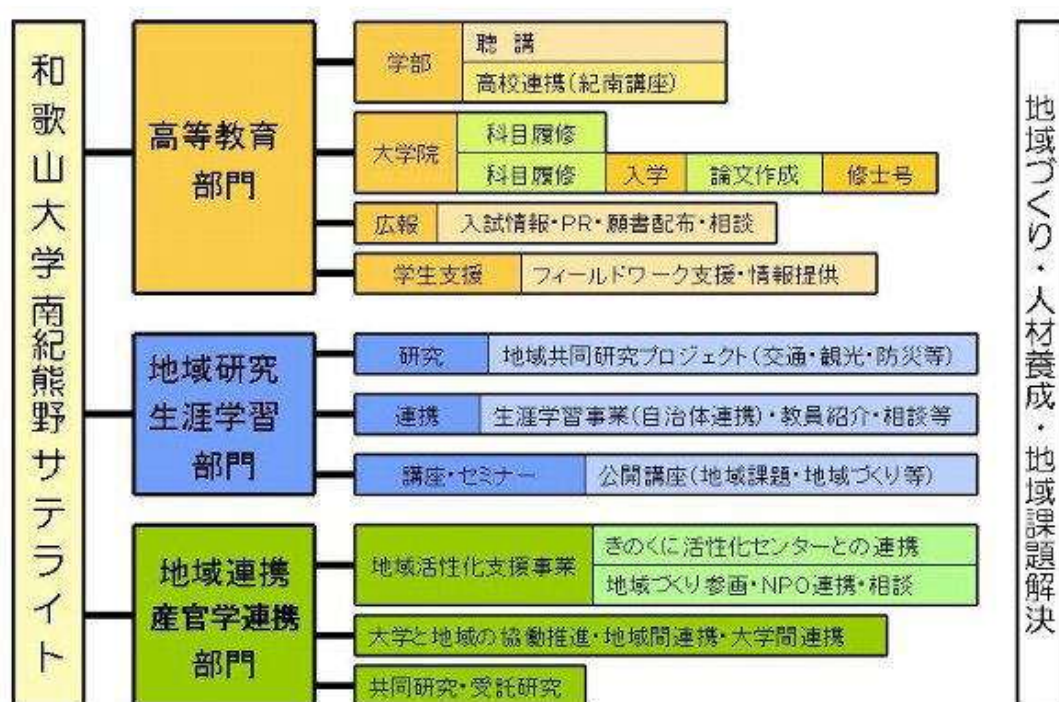


図 1 南紀熊野サテライト構成図

3 岸和田サテライト

岸和田サテライトでは、これまで①学校型事業、②非学校型事業に大別した形で、岸和田市をはじめとする泉州地域のニーズに対応した事業展開を行ってきた。2008年度においては、岸和田市との地域連携協定5年目の節を迎えたことを踏まえ、これまでの事業展開と今後の事業展開について、和歌山大学・岸和田市地域連携戦略チームを作業部会として設置し、点検・評価と今後の事業展開のあり方についての検討を行い、その結果を2009年度、2010年度の事業展開に反映させてきた。また、2011年4月には、岸和田サテライト開設5周年を迎えた。以下、2011年度の事業展開について、経済学部との関わりを中心に記す。

3.1 学校型事業

(1) 大学院授業

市民ニーズを取り入れながら「大人の学びをプロデュースする」という目的の下、2006年度より経済学研究科及び教育学研究科において科目等履修生を対象とした大学院授業を実施してきた。経済学研究科では、06年度5科目、07・08年度6科目を開設し、サテライト事業の中核を担ってきた。09年度以降においては、更なる拡充をはかり8科目を開設するとともに、租税法を研究科目とする社会人を対象とした研究指導を岸和田サテライトにて実施するなど、サテライト授業の拡充・体系化に努め、2010年度には、サテライトでの租税法科目の研究指導を経て2名が修士課程を修了した。また、社会人受講生の要望を反映する形で、フィールドワークなどを取り入れた授業展開など、工夫を凝らしているところである。

2011年度の経済学研究科開講科目と担当者、受講者数（（ ）は正規生を内数で示す）は以下の通りである。

[前期開設科目]

- ・ 租税争訟法 畦地文晴 15 (14)
- ・ 会社法特論 清弘正子 14 (12)
- ・ 地域産業史 長廣利崇 21 (16)
- ・ 現代日本中小企業論（非常勤講師）田中幹大 20 (11)

[後期開設科目]

- ・ 法人課税論 森江由美子（非常勤講師）19 (18)
- ・ 会計学原理 山田恵一 12 (9)
- ・ 現代企業経営論 高岡伸行 21 (16)
- ・ 地方都市の交通とまちづくり 辻本勝久 23 (15)

(2) 学部開放科目

より幅広い市民の知的要求を受け入れる場として、08年度から新たに学部授業を開講している（聴講生形式）。2011年度は、前期1科目（観光学部担当）、後期1科目を開講（システム工学部担当）。

3.2 非学校型事業

岸和田市を中心に、市民の地域研究・生涯学習活動を共同した形で、地域学習活動の推進を図っている。本事業は、和歌山大学地域連携・生涯学習センターが核となって積極的に展開しているが、経済学部の教員も、地域研究活動や学生の調査研究活動等として参画している。

3.3 わだい浪切サロン

岸和田サテライトを、泉州地域住民と和歌山大学との交流・連携の身近な場とするため、2008年度より、毎月第3水曜日という定時定点方式で年10回「わだい浪切サロン」を開設してきた。2011年度も同様の形式で開催している。和太教員が様々なテーマで話題を提供する形で展開、常時20～40名程度の参加を得て好評を博している。

[2011年度わだい浪切サロンで話題提供を行った経済学部教員（予定を含む）]

- ・ 松田忠之「身近な統計の話 ～不確実な現象の扱い方」2011年9月21日
- ・ 本庄麻美子「家庭・地域だからこそできる大学生への就職支援 ～学生の自立・自律力育成を目指して～」2011年10月19日
- ・ 大西敏夫「T P P（環太平洋経済連携協定）問題～どうなる食と農～」2012年3月21日（予定）

3.4 岸和田サテライト友の会の活動

2007年12月に岸和田サテライト大学院授業履修生（OBおよび受講中の社会人学生）をメンバーとした「友の会」が発足し、会員60名を超え、総会や講演会活動など活発な活動を行っている。2011年度の実施事業は下記の通りである。

- ・ 岸和田サテライト 2011年度後期開講科目説明会・友の会夏期講演会：2011年7月2日
谷脇幹雄（本学修了生）「南紀田辺の環境を活かした地域振興について」
渡部幹雄附属図書館副館長 「地域からの学び～住民参加型の図書館づくり」
- ・ 岸和田サテライト 2012年度開講科目説明会・友の会冬期講演会：2012年2月開催（予定）

経済学部においては、サテライトの科目等履修生から本課程に進み、修士課程を修了した方の研究報告会や経済学部教員による講演会企画、さらには、サテライト授業や本課程募集の広報など、多面的な形で友の会との協力関係を構築してきており、こうした関係づくりは今後さらに重要性を増すものと考えられる。

3.5 高大連携事業の推進

2008年度に岸和田市立産業高校から経済学部に対して高大連携の申し入れがあり、引き続きその具体化に取り組んでいるところである。なお、2011年度に実施した事業は以下の通りである。

- ・ 岸和田産業高校生の和太経済学部訪問（ゼミナール見学と懇談会）2011年7月11日

対応者：大西敏夫、辻本勝久、高校生 6 名、産業高校卒業の学部生 5 名、地域連携コーディネーターが参加

3.6 南紀熊野サテライト、まちかどサテライトとの連携の強化

2010 年度においては、南紀熊野サテライトとの共通科目を開講したほか、2011 年度からは、まちかどサテライトを加えた 3 つのサテライト間での情報交換、交流の場を定期的に設け、連携強化を図っているところである。

4 産学連携・研究支援センター（旧 地域共同研究センター）

産学連携・研究支援センター(旧地域共同研究センター)は地域貢献機能の拡充を図るために、2010 年より独創的研究支援プロジェクトを学内で公募している。経済学部からは 2010 年に 1 件採用された。

代表者 辻本勝久

課題名 「民産官学連携による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能の充実」

期間 2010 年～2011 年度

配分額 5,836 千円（内 2011 年度配分額 2,511 千円）

5 国際教育研究センター

「国際教育研究センター（IER センター）」は、海外の教育研究機関との国際交流、受け入れ留学生の教育と生活支援、派遣留学生の教育、国際交流教育、また国際共同研究を柱として、2004 年に発足しました。センターは「国際教育セクション」、「国際研究セクション」、「支援セクション」の三つのセクションと事務組織とが、互いに連携しあう形で成っています。経済学部としては、例えば同センターが主催する外国人留学生向けの科目「Japan Study」にて経済学部教員が授業をおこなったり、海外研修科目「海外短期・社会演習」にて引率したりするなどして、参加・協力しています。

- ・ 2011 年 6 月 17 日 Japan Study 足立基浩
- ・ 2011 年 9 月 5 日～18 日 海外短期・社会演習(中国・東北財経大学)李東浩

6 紀州経済史文化史研究所

紀州経済史文化史研究所は、「紀州地域の経済、文化の史的研究及び自然に関する基礎的研究並びにそれらに関する資料の収集及び公開を行い、「知」の提供を通じて地域社会の発展に寄与すること」を目的とした施設です。本研究所は、和歌山大学の創設まもない1951年に設立され、すでに50年以上の歴史を刻んでいます。この間、紀州関係の史的研究や資料収集等の活動を行い、全国的にも知られた研究施設として事業を進めてきました。

こうした活動の蓄積が認められ、2007年2月には博物館相当施設に指定されました。主な事業は、紀州地域の史的研究や資料収集、地域との共同研究、史料保存及び展示の開催、史料等の閲覧サービス、研究紀要、フィールドミュージアム叢書の刊行、研究会・シンポジウムの開催などです。

本研究所は、図書館棟3階にあり、展示室、貴重書庫などを備えています。大学博物館としての機能も充実させ、学内の学生・研究者に対する教育・研究支援はもちろんのこと、県内外の博物館・研究施設や研究者との交流・連携をはかり、地域の研究情報センターとして地域史研究の核となる役割も担っています。最近では、大学に閉じこもることなく、さまざまな地域へ出かけ、展示やシンポジウムの開催なども積極的に行い、地域貢献に寄与しています。

2010年度11月より2011年度にかけて紀州経済史文化史研究所が主催している事業で、経済学部教員が関わっているのは、下記の取り組みである。

- ・特別展「西岡虎之助—民衆史学の出発—」（於：図書館3階紀州研展示室）
日時：2010年11月15日（月）～12月17日（金）
担当内容：監視・説明（上村雅洋）
- ・特別展「みる・きく・たのしむ 和歌祭」（於：図書館3階紀州研展示室）
日時：2011年4月11日（月）～5月20日（金）
担当内容：監視・説明、図録執筆（上村雅洋）
- ・公開講座「雑賀踊」（於：東照宮会館）
日時：2011年4月24日（日）
担当内容：挨拶（上村雅洋）
- ・「和歌祭」現地見学会（於：和歌浦地区）
日時：2011年5月15日（日）
担当内容：図録配布・案内
- ・常設展「和歌山大学のなりたちと資料」（於：図書館3階紀州研展示室）
日時：2011年6月28日（火）～9月30日（金）
担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村雅洋、長廣利崇）
- ・企画展「和歌山絵解きの世界」（於：図書館3階紀州研展示室）
日時：2011年6月28日（火）～9月30日（金）
担当内容：監視（上村雅洋）

- ・「苺萱石童丸物語絵解き」（於：県立博物館）
日時：2011年7月18日（祝・月）
担当内容：記録・案内（上村雅洋）
- ・『和歌の浦 その原像を求めて』（紀州経済史文化史研究所ミュージアム叢書③）の刊行
清文堂出版、2011年9月25日刊行、1900円
担当内容：編集・一部執筆（上村雅洋）
- ・企画展「移民の仕事とくらしーアメリカ、カナダ、ブラジル、オーストラリアー」
（於：図書館3階紀州研展示室）
日時：2011年10月18日（火）～11月22日（火）
担当内容：監視（上村雅洋、長廣利崇）
- ・パネル展「世界をつなぐ和歌山県人会との交流」（於：図書館・システム情報学センター1階展示・掲示コーナー）
日時：2011年10月18日（火）～11月22日（火）
担当内容：監視（上村雅洋、長廣利崇）
- ・シンポジウム「和歌山から世界への移民Ⅱ」（於：観光学部）
日時：2011年10月29日（土）
担当内容：出席・案内（上村雅洋）

7 きのくに活性化センター

きのくに活性化センターは、和歌山大学と地域が連携して紀南地域の活性化を図っていくことを目的に、2002年4月、和歌山大学経済学部と紀南地域の自治体、経済界などが参画して設立されたもので、毎年度委託事業のほか独自事業、共同企画などを行なっています。

2011年は、4件の事業を受託したほか独自事業2件を実施しています。そのうち、経済学部教員が関係する事業は、つぎのとおりです。

7.1 串本町古座地区の資源調査とマップの作成

串本町商工会からの委託事業。串本町古座地区の古座街道を活用した新観光モデルの作成を目的に和歌山大学経済学部学生による資源調査（タウンウォッチング）を実施し、「熊野の港町・古座の道歩きマップ」を作成した。

教員：鈴木裕範

7.2 串本町大島の資源調査とマップの作成

串本町商工会からの委託事業。串本町大島の観光を推進するため和歌山大学経済学部学

生による資源調査（タウンウォッチング）を実施した。来週までに「大島の島歩きマップ」を作成する予定。

教員：鈴木裕範

7.3 聖地熊野を核とした癒しと蘇りの観光圏事業・食文化創造事業

田辺市からの委託事業。田辺市並びに奈良県十津川村における食資源を観光圏事業に活かすことを目的に田辺市・十津川村の6地域26カ所で教員と経済学部学生によるヒアリング調査を行ない、評価と提案を調査報告書に作成し提出した。

教員：大西敏夫・鈴木裕範

7.4 北山村「奥熊野・北山村の民俗誌」（仮題）の製作・刊行

北山村の委託事業。過疎・高齢化が進行するなかで、「地域づくり」事業の一環として村の記憶を「村の民俗誌」として刊行するため、年中行事、生活譚、民話（昔話・伝説）、俚謡等を調査・執筆する。

教員：鈴木裕範

7.5 学生たちが聞き取った「太田・村の暮らし365日」作成・刊行

和歌山大学経済学部学生が、2010年度から那智勝浦町で地元住民と協同で展開している「太田の休耕田・耕作放棄地再生モデル」研究事業の一環として、地域の生活文化の聞き取り調査を実施し、地域活性化に寄与することを目的とする。

教員：鈴木裕範

7.6 廃校舎の利活用地域再生

和歌山大学経済学部中村太和ゼミが行なった調査（『紀南地域における廃校舎の現状』）をふまえて、廃校舎を地域子コミュニティの新しい拠点としてどのように再生するか―「研究会」の立ち上げ、「フォーラム」を開催する計画。

教員：中村太和・鈴木裕範

8 和歌山地域経済研究機構

和歌山地域経済研究機構は、経済学部、観光学部、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所と共に研究・政策提言活動を行っている。2011年度活動として、「和歌山市まちづくり戦略研究～持続可能な都市構造をめざして」「和歌山市における幹線公共交通網の再構築とまちづく

りに関する研究」をテーマとして2つの研究会が活動している。

2011年度の本学での役員、研究メンバー、刊行物は次のとおりである。また、Webサイトの運営、メーリングリストサービス等を提供し、事務局業務についても貢献している。

8.1 役員

理事長：遠藤史

理事：石橋貞男、鈴木裕範

8.2 研究会

【和歌山市まちづくり戦略研究会】

和歌山市を中心とした和歌山市圏域における将来の望むべき姿～「持続可能な都市像」＝ランドデザイン～づくりを研究する。地域特性を活かしながら多くのひとが交流し「住んでよかった。来てよかった」といわれるまちづくりのビジョンを構築することが目的である。

研究員：大泉英次、足立基浩、鈴木裕範

【和歌山市交通まちづくり研究会】

和歌山市では、移動における過度の自動車依存と都市の拡散が同時に進行し、環境（地球温暖化ガスの排出等）・社会（交通事故、健康問題、広大な公共交通不便地域の存在等）・経済（中心市街地の衰退等）の各面において、自動車依存シンドロームとも言うべき様々な問題が生じている。

和歌山市のまちづくりのあり方を確認した上で、幹線公共交通網の再構築に焦点を絞り、その意義について環境・社会・経済の3つの視点から定量的・定性的に調査研究を行う。

代表：辻本勝久

研究員：辻本勝久、藤田和史

8.3 刊行物

機関誌： 地域経済 No.15 2011年7月発行

研究成果：

No.21 和歌山市中心市街地活性化における中心商業地の問題 2011年3月

No.22 わかやま散策マップ 2011年3月

9 柑芦会

経済学部同窓会は、和歌山大学経済学部の前身である和歌山商業高等学校の第1回卒業式にあたり1926年3月に結成され、その後1929年に当時の岡本校長によって「柑芦会」と命名された。

柑芦会は、会員相互の親睦を図り、かつ、母校と会員との関係を緊密にし、その隆昌と発展を助け、あわせて社会文化の進歩向上に寄与することを目的としている（会則第2条：1968年制定）が、大阪支部では、近年「人生と仕事の幅を広げる！」をモットーに会員及び現役和大生に向けて数コースの「人生塾」を開催している。

2004年9月からは、和歌山大学の教員を講師とする「研究わくわく人生塾」を新設した。

経済学部の教員は、ほぼ2ヶ月に1回大阪支部会館に出向き、20名程度の会員等に、「研究の楽しさ」や「現在の研究テーマ」等について、講義を行っている。

9.1 研究わくわく人生塾講師

- ・ 金川 めぐみ 2011年3月8日（火）
「共助でつくる福祉のまちづくり」
- ・ 大澤 健 2011年5月18日（水）
「シニア企業に期待するもの」
- ・ 大西 敏夫 2011年7月12日（火）
「都市農業（おおさかの農業）の役割を考える」
- ・ 厨子 直之 2011年9月22日（木）
「現場を元気にするリーダーシップ：ご自身の持論をもとに考える」
- ・ 荒井 信幸 2011年11月15日（火）
「巨大災害への経済的視点」

10 地域連携オフィス

地域連携オフィスでは、以下の3点の活動目的を確認し、それに従った活動を展開してきました。

- ① 経済学部の組織および教員個人における地域社会への貢献活動の実態をとりまとめ、学内外への情報発信をはかる。
- ② 地域社会の様々なニーズに応えるための学部の窓口となる。
- ③ 他学部、各種のセンターをはじめとした学内の諸組織との情報交流を進め、地域連携のネットワークをつくっていく。

10.1 社会・地域連携活動のとりまとめと情報発信

昨年度の『社会・地域貢献活動一覧』冊子をもとに、学内諸組織での経済学部教員の活動、経済学部のOB・OG組織である柑芦会、きのくに活性化センターなどの学外組織との連携活動など、社会・地域貢献活動の実態把握につとめました。さらに、個々の教員の活動についても、ゼミナール・講義等での学生、大学院生とのフィールドワークなども包括する形で情報収集につとめました。

情報発信の面では、昨年度の冊子刊行以降の取組みについて、本冊子の編集・刊行を行いました。また、本冊子のうち、組織的活動の概要については、広く学内外に情報発信しています。フィールドワークについては、地域連携オフィス委員の活動を中心に情報発信することとしました。

10.2 地域社会のニーズに応える窓口

地域連携オフィスが地域社会のニーズと経済学部教員のシーズとを円滑につなぐ機能を果たすため、オフィスの位置づけと機能を図2のように整理しました。

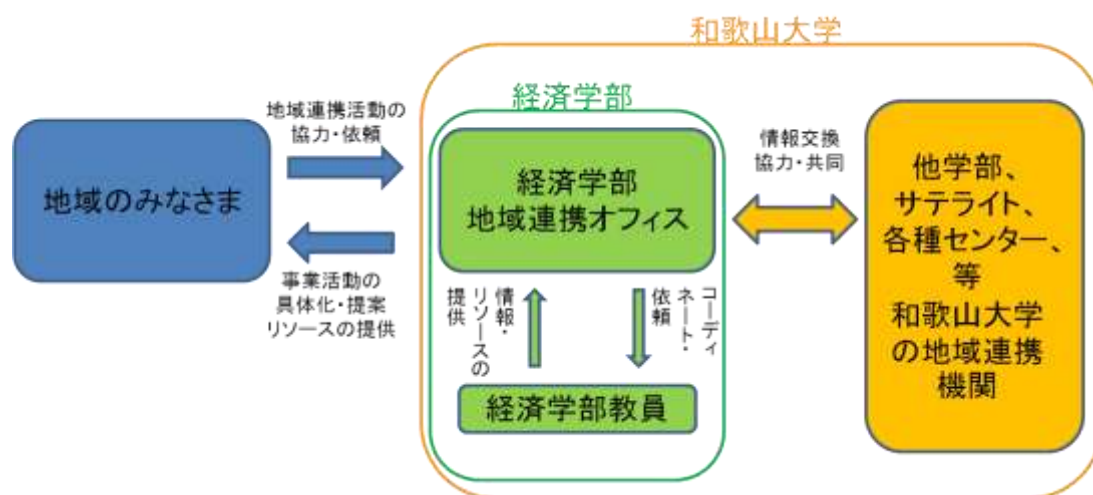


図 2 地域連携オフィスの窓口機能に関するイメージ

こうした整理に基づいて、地域連携オフィスに寄せられた各種依頼のコーディネートにとりくみました。また、経済学部の Web サイト内に地域連携オフィスのページを作成し、学外への情報発信と窓口機能の整備・充実をはかりました。

10.3 学内諸機関との情報交流とネットワークづくり

2010年7月に和歌山大学は、地域社会・産業界との連携を進めていくための組織改革として、「地域創造支援機構」を創設しました。本機構には、産学連携を行う「産学連携・研究支援センター」（旧・地域共同研究センター）と、地域連携・生涯学習事業を行う「地

域連携・生涯学習センター」(旧・生涯学習教育研究センター)が設置されています。現在は地域連携・生涯学習センターに附属機関として3サテライト(南紀熊野サテライト・岸和田サテライト・和歌山大学まちかどサテライト)と防災研究教育センターが設置されています。

全学の新しい体制のもとで、地域連携オフィスは、今後とも紀南熊野・岸和田サテライトをはじめ学内の地域連携機関との日常的な情報交流の円滑化につとめてまいります。

10.4 地域連携オフィス委員会の運営

2010年度の活動(委員会を計4回開催)を引き継ぎ、地域連携オフィスの組織活動と運営方針を議論する機関として、地域連携オフィス委員会を、下記の7名のメンバー構成で、計3回(2011年11月時点)開催してきました。

地域連携オフィス 2011年度メンバー一覧

石橋 貞男 (室長)

大泉 英次

大西 敏夫

鈴木 裕範

藤田 和史

脇田 淳一

山本 敦子